

平成 26 年 4 月 10 日

第 79 回国民体育大会に向けた整備について

野洲市

論点整理**1. 総論**

滋賀県では、平成 36 年開催予定の第 79 回国民体育大会に向けて開催準備委員会を設置し、先ずは主会場の選定を専門委員会で行っている。

現在の滋賀県のスポーツ施設は、昭和 56 年の「びわこ国体」の際、既存施設を流用した大会運営を行った結果、県内には最新の競技基準に適合した施設が存在しない。

国体開催はもとより、県内のスポーツ振興と競技水準の向上を図るためにも、速やかに計画的な施設整備を行うべきであるが、主会場の選定作業が遅れるとともに、遅延理由を含め手続きの透明性に懸念が存在する。作業の遅れは、準備全体に影響するばかりでなく、計画的な開催そのものにも影響する。

2. 主会場の選定作業

- ・主会場選定基準において基本的なあり方等の情報量が少ない
- ・作業が遅れている
- ・会議の公開性が低い
- ・会議用の検討資料において事業メニュー、経費等情報量が抑制的ではないか
- ・会議用の検討資料に関して事前の当事者確認がなされていない

3. 整備が必要な施設の全体像が明らかでない

40 弱の正式種目（夏季大会）の会場に関し、既存施設の状況、整備主体、費用等含め全体像が不明である

4. 選定委員会と常任委員会との関係

- ・常任委員会と選定委員会との関係は、委任・付託と報告の関係になっているが、具体的な権限関係が不明確である
- ・常任委員会は選定委員会の結果報告を実質的に追認することを想定しているのか

5. 主会場の選定作業及び全体スケジュールの見通しへの懸念

- ・遅延理由が不明な中での再遅延の可能性
- ・主会場選定が全体スケジュールに及ぼす影響
- ・高校総体など大規模な大会との調整

国 滋 準 委 第 7 号
平成 26 年(2014 年) 3 月 31 日

野洲市長 山仲 善彰 様

第 79 回国民体育大会滋賀県開催準備委員会
会長 嘉田 由紀子

国民体育大会主会場（開・閉会式会場、陸上競技会場）の
選定に係る確認事項について（依頼）

時下、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

さて、現在、当委員会に組織している主会場選定専門委員会（以下「専門委員会」という。）において、国体主会場選定の検討を進めているところであり、去る 3 月 25 日に開催した第 4 回専門委員会においては、希望が丘文化公園を含む 3 つの候補地における利点と課題が明らかにされ、さらに、その課題のうち、貴市への確認が必要なものとして、下記の事項が挙げられたところです。

つきましては、これに関する貴市の検討状況について確認いたしたく、5 月 2 日（金）までに回答いただきますようお願いいたします。

記

○専門委員会で確認が必要とされた事項

名神高速道路・菩提寺PAを活用したスマートインターチェンジ整備に向けた検討状況について

希望が丘文化公園を国体主会場として活用するために、また将来にわたり有効に活用するためには、高速道路からのアクセス改善が必要と考えられる。

12 月から 1 月にかけて実施した主会場選定にかかる照会に対する貴市の回答中、名神高速道路菩提寺PAを活用したスマートインターチェンジの整備について言及がなされているところであるが、その整備に向けた貴市における検討状況について回答をお願いしたい。

担 当 ※所属、連絡先は 4 月 1 日以降
開催準備委員会事務局
(滋賀県総合政策部国体準備室)
大橋、南野

TEL. 077-528-3323

FAX. 077-528-4832

(別紙)

国民体育大会主会場(開・閉会式場、陸上競技場)の選定に係る確認事項について

確認事項

名神高速道路・菩提寺PAを活用したスマートインターチェンジ整備に向けた検討状況について

野洲市回答

本市では、学識経験者や国土交通省近畿地方整備局および滋賀県南部土木事務所を交えた委員構成により策定した「野洲市交通ネットワーク構想」の中で、菩提寺PAを活用したスマートインターチェンジの整備を、本市を起点とした広域交通体系の確立を目指すための機能のひとつとして位置づけています。

本件は、滋賀県策定の「滋賀県交通ビジョン」での広域交通と地域交通のクロスポイントの機能強化や新たな交通結節点形成を進める施策の方向性に合致するもので、広域での公共交通の利便性の向上に資するものであり、本市では平成23年度から滋賀県にスマートインターチェンジの整備を継続して要望しているものです。

本市では、本件推進のため、国土交通省、西日本高速道路株式会社、滋賀県、湖南市と連携の協議を進めているところです。